

～ボランティア活動のご紹介（日野拠点より）～

当法人は多岐にわたり高齢者福祉事業に携わっております。各事業を運営していく中で、ボランティアの皆様の“傾聴、演奏、合唱、調理、配達、趣味活動”等の様々な活動により、ご利用者の心身や生活を豊かにしていただいていると職員一同感じております。日頃より、皆様の多大なるご協力、ご活躍には心より感謝申し上げます。今回は、日野拠点にて日頃ご活躍いただいているボランティアの方々を一部ご紹介いたします。



『シニアハーモニー』
ハーモニカとギターの演奏にあわせて、皆さん手拍子！



『フラワーアレンジメントクラブ』
皆さんとても器用です。



『紙芝居』
ご利用者の皆さん、集中して聞かれています。



『どんぐりの会』
素敵な歌声に皆さんうっとり♪



『結弦』
二胡（中国の弦楽器）の演奏に皆さんゆったり♪



音楽祭の様



お琴の練習



三味線の練習



『小原先生（音楽療法士）』

普段は、ご利用者への音楽療法を行っていただいております。また、職員の有志による音楽活動のため、ご指導いただき、ご利用者の方々に毎回楽しんで頂けるよう活動しています。

法人としては、社会福祉事業をより良いものとするため、ボランティアの皆様の貴重なご協力は必要不可欠と強く思っております。上記のような活動を通じて、ご利用者、ボランティアの皆様双方において社会参加という点でとても良い機会と信じております。ご賛同いただき、ご興味のある方はぜひぜひお近くの当法人の各施設・事業所まで一度お問い合わせの程、よろしくお願い申し上げます。

マザアスは経営理念として「共に生きる社会の創造」を掲げております。地域の方々と当法人が協働できるよう、近隣の顔の見える化に有機的に取り組み、施設への受入だけでなく、普段から互いにボランティアとして助け合う、昔のような“相互扶助の慣習”を取り戻せるよう一歩一歩着実に取り組んでいく所存です。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

（マザアス日野 総務課長 野村明男）

当法人への寄付について

当法人では、職員への謝礼などは一切お断りしています。もし、わたくしたちのケアに対して評価をしていただけたら、当法人へ寄付というかたちでお願いできれば幸いです。尚、社会福祉法人へのご寄付は、税法上寄付金控除の対象となっております。

寄付申し込み方法：銀行振込、窓口受付

銀行振込：

三菱東京UFJ銀行日野市役所支店 普通預金 0330972 社会福祉法人マザアス 理事長 高原敏夫

編集後記

3月になるとインフルエンザの流行が終わりほっとします。個人的には、花粉症が始まると春を感じます。消防署員のTシャツに「訓練に終わり無し」と書いてありました。「体調管理も終わり無し」です。

（編集担当 黒澤信一 メール：office@moth.or.jp）

ひだまり

No.79

発行責任者：高原敏夫

発行元：社会福祉法人マザアス

〒203-0004 東京都東久留米市米川台二丁目5番7号

TEL. 042-477-7261

FAX 042-477-7500

http://www.moth.or.jp

マザアスニュース

No. 79

2017年2月28日

ひだまり



MOTHERTH

MOTHERTH NURSINGHOME FOR THE AGED

社会福祉と寄付

社会福祉法人マザアス

理事長 高原 敏夫



秋の新入職員オリエンテーション左から衣川常務理事、高原理事長、黒澤法人局長

昭和59年、それまで働いていた病院から社会福祉事業に転身したのは、その病院に入院していた患者さんの「不動産寄付」によって社会福祉法人が設立されたことによる。

当時の6億円は、新たに土地取得、建設費法人負担分、運営経費等を賄って、借入金を最小限で発足することができた。従って、この特別養護老人ホームは、故人の「記念ホーム」的なものであった。その後、間もなく残地を利用して、当時急速に社会問題となった「認知症」に対応すべく専用棟を建設することになった。

この時も学生時代の恩師が5千万円相当の「不動産寄付」の申し入れがあって、土地処分に時間を要しているうちに値上がりし、結果的には7千万円の資金を得ることができた。この法人の実績と影響は大きく、今や関連法人が二つ増えていることは驚きである。

実は、我が法人もこの流れのなかで、東久留米市にもこのような「特別養護老人ホームを」の声に後押しされて平成6年に生まれたのであった。

地域に「設立の必要性」があっても「資金」「土地」「職員」等皆無の状態の時、大手の会社から「2億円寄付」の申し入れがあり、国、東京都、東久留米市の助成で設立に目処がついた経緯がある。当時は設立の必要が高かったため、東京都は土地取得にも助成してくれたが、この助成がなかったら今日はなかったのではないかといても過言ではない。

以上のような社会福祉法人にたいする寄付行為には、税金が無税になるような「特別措置」が講じられている。租税特別措置法第40条に該当するような寄付をうける法人は、法人定款に明記する必要があるが、今回の社会福祉法人改革における定款内容の変更には盛り込んでいない。勿論該当するような申し入れがあれば改定するつもりである。

社会福祉は社会、地域、住民の支援や善意がなければ、地域に必要とされる事業展開にはならない。地域社会からの理解を深め、一層支持されるような努力しなければならないと思っている。日本財団では「遺贈寄付」をサポートするセンターの活動を積極的に推進しているし、海外で活動している様々な団体が派手に募金活動を展開している。社会福祉法人への個人寄付金には「税額控除制度」もあるので、私共の法人も人々の善意を大切にする寄付文化を少しずつ育てていきたい。法人の設立経緯からいっても努力して、地域の方に支援がいただける法人になりたいものである。

社会福祉法人の責務

マザアス新宿の取り組み

前号では日野事業所の地域における公益的活動についてご紹介しました。今号では、新宿事業所の活動について、その一端をご紹介します。

① 認知症サポーターの声かけ訓練

マザアス新宿は、新宿区の「高齢者のいきがい・敬老事業」のひとつ「認知症サポーター」の養成に、例年協力しています。認知症サポーター講座の開催と同時に施設見学会を行い認知症の方がマザアス新宿で普通に暮らしている姿に接していただき、より認知症の人の普段の暮らしを理解してもらいます。今年度は、平成28年11月8日(火)、区の認知症サポーター活動登録者のための「フォローアップ講座」を、マザアス新宿で行いました。

当日は、30名の認知症サポーターが、マザアス新宿の建物を使った認知症徘徊声かけ訓練を体験。地域の警察職員も多数参加して模擬交番を設置し、実際の110番通報を行うなど、地域・専門職・警察・行政が一体となった声かけ訓練となりました。

認知症高齢者の対応のポイントを知識として持っている参加者も、実際の声かけには戸惑うことが多かったようですが、多くの学びを得たとのアンケート結果が寄せられています。この機会に、徘徊する認知症高齢者に扮したマザアス新宿の介護職員も、豊かな気づきを得たようです。



② 認知症高齢者支援ボランティアステッパップ講座

今後ますます増えていく認知症高齢者を地域で支援するために、新宿区社会福祉協議会が毎年行っている認知症高齢者等支援ボランティア育成事業への協力として、今年も、ボランティア養成講座の運営に関っています。

直近の開催で第4回を数えたこの講座では、マザアス新宿は企画段階からかかわっています。

この講座では、認知症の基礎知識のみならず、認知症の当事者ばかりでなく介護家族への支援も含めた具体的な支援方法についての講義やグループワークなどの座学も行っており、また、マザアス新宿をはじめ介護支援ボランティア・ポイント事業受け入れ施設での1日2時間程度2日間の体験ボランティア活動も、プログラムに含まれています。

活動体験を除く、4日間の講座日程の最後の振り返りのグループワークには、実際に現場で受け入れ・活動支援を行った介護職員も参加しており、ボランティアのリアルな声を聴いて日々の活動支援に役立てるとともに、関係機関と専門職、ボランティアが連携・協働するために具体的にどのような体制が効果的なのかを、考える機会となっているようです。

おかげさまでマザアス新宿のボランティア希望の方も増えました。



③ 看護学生の実習受け入れ

今年度は多くの実習生の受け入れを行ってまいりましたが、特筆すべき例としては、東京女子医科大学地域看護学の実習生の受け入れがあります。

看護学部3年生8名が、2名ずつ4日間にわたって小規模多機能ホームさくらで利用者とかかわり、介護のアプローチを学びながら、地域の高齢者の暮らしを支えるためにどのような看護活動が必要なのか、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と機能、退院支援について学びました。



実習は12月初めで終了しましたが、12月21日には、看護学部音楽部の学生が、総勢17名でクリスマスコンサートに訪れ、生の伴奏と、若々しく澄んだコーラスのクリスマスソングメドレーや美空ひばりなど往年の大ヒットソングで、マザアス新宿の利用者と参加の地域住民の皆さんを楽しませてくれました。



④ 地域安心カフェ見守り「マザアス」

平成28年4月より、新宿区の地域安心見守りカフェのひとつとして、地域の高齢者総合相談センターと連携し、毎月第3月曜日に「カフェ マザアス」を開催しています。

地域安心見守りカフェは、新宿区の「地域のつながりや支え合いの輪を広げながら、高齢者や介護者の孤立を防ぐことを目的に、地域の高齢者や介護者が気軽に立ち寄り、茶菓等を楽しみながら、交流・相談等ができる場」として、現在区内に6か所あり、4つめのカフェとしてスタートしました。

大久保通りをはさんで、都心の限界集落である「戸山ハイツ」と向かい合う「カフェ マザアス」には、戸山ハイツの住民も多く参加されます。「独居だから、声を出す機会がなくて元気がでない」という地域の高齢者の言葉から歌声喫茶を開催したり、地域の専門職の協力を得て、防犯・防災のための講座や薬局の活用方法の座学を開催したり、マザアス新宿の管理栄養士が手抜き孤食でも栄養バランスを整えられる食事メニューをレクチャーしたりと、地域住民のためのさまざまなプログラムを実施してきました。

今後は、マザアス新宿の利用者がもてなす側としてカフェ マザアスを切り盛りしていただくことも計画しています。

⑤ マザアス新宿施設見学の受け入れ

早稲田大学人間科学部の健康福祉行政ゼミや東京大学大学院看護学専攻の研究チーム、新宿区介護モニター、特定非営利活動法人ボラネット新宿、地域の高齢者を対象とした生涯学習のグループ等、今年度も多くの方が、マザアス新宿を見学しています。トヨタ財団国際交流プロジェクト「高齢者の尊厳ある生き方を支えるコミュニティづくり」の一環で、中国からも専門家と有識者が訪れました。

(マザアス新宿 ボランティアコーディネーター 高橋美加子)